

SpiberとADM、米国におけるBrewed Protein™ポリマー製造のための 環境再生型農業の実施と規模拡大に向けた協定を締結

2020年、Spiberと米国の穀物プロセッサー大手ADM社（以下、ADM）は、Spiberが開発するBrewed Proteinポリマーの米国での量産における協業についての契約を締結しました。現在、ADMの商業規模での発酵生産における深い知見、プラントエンジニアリングやオペレーションに関するノウハウを活用し、トウモロコシ由来のデキストロースを用いたBrewed Proteinポリマーの生産開始に向け、ADMのアイオワ州クリントン市の設備において準備を進めております。

そしてこの度、私たちは本パートナーシップによる環境に関する取り組みをさらに拡大させるべく、新たな協定を締結しました。この協定は、クリントン周辺でトウモロコシを生産・供給するADMのサプライヤー間における再生型農業の導入を共同で支援することを目的としています。具体的には、ADMの広範な農業サプライチェーンと生産者との強固な関係性を活用し、アイオワ州の農家と協力しながら、耕起を減らすことや土壌の栄養管理方法の改善などといった他の環境再生型農業の手法とあわせ、カバークロップ（被覆作物）の導入を進めます。

ADM, Climate Smart Ag Origination Director | Paul Scheetz氏コメント

「サステナビリティへの取り組みは、ADMの成長戦略における原動力であるだけでなく、何よりもADMの企業としてのあり方を示しています。当社のスコープ3^{*1}に関するコミットメントが示すように、私たちはバリューチェーン全体の脱炭素化をリードすることを約束しており、再生型農業はその戦略の重要な要素となっています。私たちは、お客様や生産者の方々と協力しながらこの肝要な実践を拡大していけることを大変嬉しく思います。」

再生可能かつ持続可能な農業は、環境負荷の低減、農地の回復力向上、農場の収益性の向上などといったポジティブな結果を期待することができます。また、本プロジェクトを通じて、農家に金銭的な補償と、農場において当該農法を取り入れる際の技術的な支援を提供することができ、さらに農家間のネットワークの活用を促進し、同業者間での知見の共有も可能にしていく見込みです。

再生型農業は、土壌の健全性の向上、土壌の炭素貯留、浸食の減少をもたらすことが示されており、これらは温室効果ガス（GHG）や水質汚染の削減にも寄与する可能性があります。プロジェクトによる影響は、Field to Market（サステナブルな農業を目指す米国の非営利団体）の方法論に従って監視・計算され、GHG排出量についてはISCC認証を取得する予定です。達成されたGHG削減は、両社のスコープ3排出量削減目標への達成に貢献することが期待されます。

Spiber America, VP of Sustainability | Sunita Darbe氏コメント

「社内のライフサイクルアセスメントを通じて、私たちの主要な原材料が、Brewed Proteinポリマー生産における環境負荷の最大の要因の一つであることが判明し、現在Spiberでは、当社の事業がもたらす負の影響を最小限に抑えるよう様々な力を尽くしているところです。そのような状況の中、ADMのアイオワ州における再生型農業プログラムの経験やノウハウのおかげで、私たちは米国でのBrewed Proteinポリマーの生産を開始する初期段階から、これらの非常に重要かつ有益な実践を当社の

サプライチェーンに取り入れることができ、より責任のある製造に近づくことができます。本プロジェクトの実現に向けたADMのサポートに、心より感謝しています。」

※1 温室効果ガス排出量の算定・報告の国際基準であるGHGプロトコルでは、事業者自らによる温室効果ガスの直接排出（燃料の燃焼、工業プロセス）をスコープ1、他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出はスコープ2、スコープ1とスコープ2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他社の排出）をスコープ3と定義しています。